3年次演習

第1回
「研究」とは

人間科学科コミュニケーション専攻
白銀 純子

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

第1回の内容

- オリエンテーション
- 卒論に向けてのロードマップ
- 「研究」とは?
  - 卒業研究に向けて

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

演習内容

- 卒業研究に向けての基礎学習
  - 文献の探し方・読み方
  - 関連する手法の基礎の理解
  - 興味のあるテーマの探索

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

授業の情報

- 授業内容
  http://www.cis.twcu.ac.jp/~junko/3rdLec/

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

成績評価

- 平常点: 30%
  - 欠席するときは事前に連絡を!
- 授業参加状況: 50%
  - 個別発表(興味のあるテーマについて、何度か発表)
  - 質疑応答
  - ディスカッション
- 課題: 20%

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

オフィスアワーとメールアドレス

- オフィスアワー: 前後期: 火曜3限
  - オフィスアワーにはこだわっていないので、スケジュールが空いているときであればOK
  - メールで予約すること
- メールアドレス: *junko@lab.twcu.ac.jp*
- 研究室: 8号館4階8413号室

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

メーリングリスト

- 3年次演習のメーリングリスト(予定)
  junko-semi4th@ml.twcu.ac.jp
  (junkoゼミ4期生)
  - 大学のメールアドレスを登録
  - いろいろなお知らせなど

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

履修してほしい授業と必要スキル

- 授業: コミュニケーション研究法実習の実験と質問紙調査
- 必要スキル: Webページ作成
  - 授業で言えば
    - 情報処理技法(マルチメディアと表現)1
    - 情報処理技法(Webでの情報表現)

  あたり

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

その他

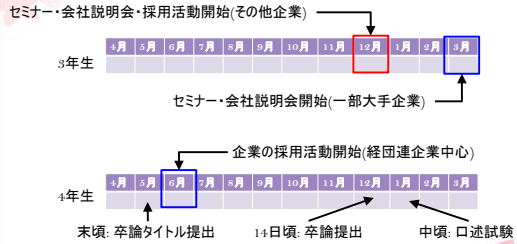
- 行事関係は、したいものを提案してください
  - 季節のイベントの企画
    - ハロウィン
    - クリスマス
    - 忘年会
    - 新年会
    - ゼミ合宿
    - etc.
  - 日常的なイベントの企画
    - ランチ会
    - お茶会
    - etc.

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

卒論に向けてのロードマップ

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

2年間の重要事項スケジュール



Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

就職活動

- 就職活動が始まると、大学にあまり来れなくなる!
  - セミナーや会社説明会に出ておかないと、採用試験や面接を受ける権利をもらえない場合も
  - いくつもの企業に行ってみる必要も

研究をするのはいつ...???

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

研究でしなければならないこと

1. テーマ決定
   - 様々な論文を読んで具体的なテーマを設定
2. テーマに沿って利用する手法の決定
   - 様々な手法を学び、適切な手法を選択
3. 手法の実践
4. 実践結果の分析と考察
5. 論文執筆
   - テーマが決まれば、随時書いていくことは可能

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

とりあえずのノルマと理想

- 4年次演習と卒論以外の単位を3年生のうちに全部とっておくこと
- 卒論のテーマを遅くても後期3年次演習終了までに決めること
  (超ギリギリライン)
  - できれば2018年内(12月中)
  - その他の作業は、テーマによってスケジュールが変わるので、テーマによって検討
- 後期3年次演習終了までに、研究計画まで作成(普通ライン)
  - 研究での作業内容とスケジュール
- 3年次演習中に研究作業に突入(理想的ライン)

2019年2月以降は、大学に来れなくても
自分で作業を進められるようにしよう!

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

「研究」とは?

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

そもそも「研究」って何?

- 何らかの**新しいもの**を作るって世の中に提供すること
  - 知識・知見の提供
    - データを取得して分析し、その結果から導き出すもの
  - 手法の提案
    - 現状の問題に対し、それを解決するための方法
- 研究に必要な条件
  - 新規性(新しいこと)
  - 有用性(役立つこと)
  - 信頼性(客観的であること)

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

新規性(新しさ)

- **他者が行っていない研究**であること
  - 誰かと同じ研究はダメ!
  - ある研究の視点を変えた研究・欠点を克服する研究・未達成の部分の研究を行うことはOK
- 新規性を満たすには...
  - 発表されている研究論文をたくさん読んで、研究されていないことを探す
    ➡ 他の人の研究について、利点や欠点を見分けることが必要

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

有用性(役立つこと)

- 研究結果が世の中で役に立つものであること
  - 「自分が興味があるから」ということはもちろん必要
  - 加えて、世の中の**誰に対し、どのように役に立つか?**を説明できることも必要!
    - 特定の範囲の人に役に立つということでOK(あらゆる人に役に立つというのはまずないので)
    - 直接でなく間接的に役に立つということでもOK
      (この研究の結果に基づいて、こういう別な研究ができるようになる、とか)
- 有用性を満たすには...
  - 論文・書籍・雑誌などをたくさん読んで、世の中の問題点を探す
  - 探した問題点を、どうすれば解決できるかを考える

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

Question!

2014年イグ・ノーベル賞受賞の研究テーマ

「バナナの皮はなぜすべりやすいのか?」

は何の役に立つ?

※イグ・ノーベル賞: ノーベル賞のパロディで、笑えるけど、考えさせられる研究に送られる賞

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

信頼性(客観的であること)

- 研究の結果を客観的に説明できること
  - 知見であれば、データをもとに適切な分析方法で結果を導き出し、研究テーマの目的を達成できたかどうかを説明できること
  - 手法の提案であれば、その手法の実践を問題なく行えたか、手法の目的を達成できたかをデータに基づいて説明できること
  - 要は、他の人が同じように作業を進めれば、同じ結果が出せること
- 信頼性を満たすには...
  - できるだけたくさんデータを取ること
  - データの分析に適切な(と思われる)方法を選んで分析すること
  - 結果の考察に主観を入れないこと

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

研究内容を説明するための「論文」

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

論文に書く内容(研究作業との関連)(1)

- 研究の動機付け
  - 世の中の現状と問題
  - この研究が必要な理由
  - 研究の目的
  - この研究により得られる(と思われる)効果
- 先行研究
  - 先行研究の紹介
  - 自分の研究との違い
- 研究テーマの実践
  - 実践した内容の詳しい説明

研究でしなければならないこと
1. テーマ決定
2. テーマに沿って利用する手法の決定
3. 手法の実践
4. 実践結果の分析と考察

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

論文に書く内容(研究作業との関連)(2)

- 結果の分析と考察
  - 取得したデータの分析と解釈
- まとめ
  - 研究で行ったこと
  - 今後に向けた課題

研究でしなければならないこと
1. テーマ決定
2. テーマに沿って利用する手法の決定
3. 手法の実践
4. 実践結果の分析と考察

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

論文に書く内容(研究の条件との関連)

- 研究の動機付け
- 先行研究
- 研究テーマの実践
- 結果の分析と考察
- まとめ

研究に必要な条件
- 新規性
- 有用性
- 信頼性

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018. All rights reserved.

というわけで...(3年次演習で固めてしまうことと作業)

- 必須の作業
  - 研究の動機付け
    - 世の中の現状と問題の理解や分析
    - この研究が必要な理由の検討
    - 研究の目的の検討
    - この研究により得られる効果の検討
  - 先行研究
    - 先行研究の検索と読み込み
    - 自分の研究テーマとの比較

  } このためにすること: 文献を探して読んで発表&ディスカッション

- 限りなく必須に近い作業
  - 研究テーマの実践
    - 研究計画の立案(作業リストとスケジュール)

  } このためにすること: 関係しそうな手法の学習

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

というわけで...(4年次演習での作業)

- 4年次演習行う内容
  - 研究テーマの実践
    - 研究計画通りに作業を進行
  - 結果の分析と考察
    - 取得したデータの分析と解釈
  - 卒論執筆
    - ただし、3年次から随時書いていくべき

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

ちょっと演習

- 卒論テーマにしたいこと(興味のあること)について、
  - 研究の動機付け
    - 世の中の現状と問題
    - この研究が必要な理由
    - 研究の目的
    - この研究により得られる(と思われる)効果

  を考えてみよう!
  (スマホとかで調べ物をしてもOK)

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

ちょっと演習(例)

アメリカ合衆国ではリハビリテーション法が定められ、日本においてもJIS X 8341-11が制定され、ソフトウェアのアクセシビリティを向上させることが重要視されている。そのためのガイドラインも多数提供されている。ガイドラインには、ソフトウェアが満たすべき項目が多数記述されている。ソフトウェア開発者には、ソフトウェアの各所について、ガイドラインを満たしていることを確認し、項目を適用することが求められる。

一方で、ソフトウェア開発にはコストやスケジュール面で制限がある。その制限内で、ガイドラインの各項目を確認し、適用することは、ソフトウェア開発者にとって大きな負担となる。そのため、十分に行われていない現状がある。しかし、それにより、障碍者や高齢者にとって利用しにくいソフトウェアになってしまう。

そこで本研究では、このような問題を解決するために、ソフトウェアのどの部分にどのガイドラインの項目を適用すべきかを自動で判定する手法を提案する。本手法により、ソフトウェア開発者は、ガイドラインの項目をどの部分に適用できるかを簡単に判断できるようになる。結果として、ソフトウェアのアクセシビリティが向上し、障碍者や高齢者のソフトウェアの利用が容易になる。

← 現状と問題点
← 研究が必要な理由
← 研究の目的
← 研究により得られる(と思われる)効果

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.

次回・次々回

- 次回: 研究論文の読み方
  - ノートPCを持って来よう!
- 次々回: 研究論文の探し方(図書館ガイダンス)

Copyright (C) Junko Shirogane, Tokyo Woman's Christian University 2018, All rights reserved.